

姉妹都市

Sister Cities



サーモンアーム

No. 9
2004.3



03. 3. 29・さよならパーティー、下座に興じる

鼓や太鼓の下座に大喜び

— さよならパーティーのひとコマ —

さよならパーティーは、例年最高に盛り上がります。九日間のホームステイで、やっとお互いに慣れて気どころが知れてきたところだからでしょう。

今回のさよならパーティーも、立食パーティーを中心として、いくつかの催しで交流をはかりました。

ひとつは、新東小学校の児童による下座の発表でした。日頃練習を積んできたこのお囃し、カナダの人たちにとっても人気がありました。日本独特の太鼓や鼓がめずらしく、アバス・クリ

スティナ団長御夫妻にとっては特に印象的だったようです。発表後、指導した地元の方や児童のところへ飛んでいき、打法の手ほどきを受けていました。

また、コーラスクラブの皆さんの発表もありました。いくつかの歌の最後は、会場の全員で「エーデルワイス」を合唱しました。素敵でした。

またいつの日か、お会いすることを夢みて、お別れが明日に迫ったこのひとときを心から楽しみました。 See you again!



2003年の事業をふり返って

東町姉妹都市交流委員会会長 山口 勝夫

昨年はSARSの流行等により親善大使派遣事業、サーモンアーム訪問団派遣事業の両方を中止するという残念な結果になってしまいましたが、これも国際交流ということのむずかしさだと思っております。今年は新市に移行する前の東町で行う最後の派遣事業となると思いますので、両事業とも必ず実現させてゆきたいと思っております。又、新市に移行後も継続して実施できる様努力してゆきたいと思っております。

3月28日はサーモンアームよりの親善使節団が来町致します。この事業につきましては町民の皆様方の御理解と御協力をお願い申し上げます。



▲ 板橋 葵

最初彼女と意志の疎通がうまくいかず緊張したとき、「大丈夫」と言って私を抱きしめてくれました。忘れられない思い出です。夜コタツをみんなで囲み、お茶を飲みながら、楽しく過ごしました。



▲ 黒田 和秀

僕の家には、ジャスティンという1.7才の医者志望の子がホームステイしました。兄とスパーリングしたり、他のホストファミリーと遊んで、とても楽しいあつという間の1週間でした。



特集

ようこそ東町へ

例年、カナダからお客様をお迎えし、たくさんの楽しい思い出づくりをしています。

— 交流のひととき —



◀ 吉田 薫

私の家では団長ご夫妻をお引き受けしました。金砂郷の大祭に案内しました。妻はお二人に寿司の手ほどきをしました。孫が加わりなごやかな9日間でした。



▲ 森山紗央梨

17才のカーリー・ケネディーは積極的に日本の言葉、食べ物などに挑戦していました。カタコトの英語、カタコトの日本語での会話でしたが、とても楽しく良い経験になりました。



◀ 根本 照子

カナダでも日本語を勉強していたので、日本語が上手でした。何にでもチャレンジする人でした。一番の思い出は海へ3回も行ったことです。二人でおおはしゃぎ。とても楽しかったです。



▲ 塚本みち子

二人の高校生を受け入れました。不安も少しありましたが、とても仲良く、楽しい毎日が過ごせました。最後の日の昼食は、カナダのメイプル型のスパゲティを調理してごちそうしてくれました。



▲ 芳陵 恵子

アンバーは何にでも挑戦する明るく、料理好きな子でした。次の年に来たメリッサはあとなしく、桜の花を見て大喜びでした。



2003年 ホストファミリーのみなさん

黒田和秀(中3 伊佐部) 坂本裕太(中3 結 佐) 関川恭平(中3 清久島)
薄井千春(中2 三 島) 小林 望(中2 潮来市) 黒沼 悠(中3 本 新)
森山紗央梨(中3 光 葉) 村田有佳(高1 結 佐) 篠田由貴子(高2 結 佐)
高城麻耶(高2 上須田) 森田菜保(高2 町 田) 吉田紗弥香(高2 福田)
根本照子(高3 西 代) 飯塚幸一(一般市 崎) 木内義延(一般押 砂)
黒田保彦(一般上須田) 坂本 允(一般西 代) 吉田 薫(一般伊佐部)
(*学年は当時)

関川 恭平 ▶

言葉はなかなか通じませんでしたが、気持ちは通じあって、デイズニールランドではとても楽しめました。最後の日は淋しかったです。



▲ 小林 恭子

英会話を実践できて嬉しかったです。おじいさん、おばあさんも感激した様子でした。スポーツやカラオケで笑顔の国際交流ができました。



◀ 黒沼 悠

日本とカナダの共通のCMの話題で盛りあがったり、おてだまをしたり、下座を体験したりと日本の文化に慣れ親しめたと思う。

夢のきっかけはサーモンアーム

第5回親善大使

清水 飯田 真由美



左が飯田さん
右は第7回大使の根本美夏さん

成田に空港が開港した年に生まれた私にとって、空を見上げればそこにはいつでも飛行機がありました。そして高校2年の夏、サーモンアーム市でホームステイを経験したことで、海外をより身近に感じることができ、様々な国と繋がっている空港への憧れを抱くようになりました。

現在、私は成田空港で国際線グランドホステスとして働いています。限られた時間の中でキャビンアテンダントにお客様を託した後、離陸する飛行機に「行ってらっしゃい！」と地上係全員で手を振る瞬間には充実感と達成感が胸がいっぱいになります。

以前、親善大使として私の家でホームステイをしたレイとはその後、私も個人的に訪問するなどして交流が続いています。姉妹都市交流により外国の文化と人々に触れ、私の夢は大きく広がりました。素敵なきっかけを与えてくださった方々に心から感謝するとともに、今後もこのような交流を通じてより多くの人が貴重な経験をする機会が増えていけばと思っております。

自国の再発見

To the people of Azuma-Machi

I have been asked to write a few brief words to the people of Azuma-Machi about the benefit of the twinning program that has existed between Salmon Arm and its school district and your city. As someone who has been involved in this activity over the past 12 years and been fortunate enough to visit Japan twice, I can tell you without hesitation just what a great benefit this program has been to our students.

I learned that the Japanese make an art form out of daily living, from the presentation that goes into every meal to the intricate ceremonies attached to activities such as the arrangement of flowers and the pouring of tea.

Having hosted Japanese every year for the past 12 years I must say that the benefits that my wife and I have received as a family have been far-reaching and most rewarding. We have met life-long friends, we have shared delicious meals, traveled together with our home stays to re-discover our own country, sung Karaoke, pointed out the friendship gate to other visitors and felt that somehow in a world where suspicion and fear abound we have been part of a small effort to make it a better world. (一部抜粋)

ルーディー・インゲンホースト



〈プロフィール〉

中学校の校長先生。大の親日家で東町へも2度来町。サーモンアームで12年間にわたって本町の訪問団を受け入れてきた。

〈要旨〉

私は12年間姉妹都市交流活動に関わり、日本に2度訪れ大変幸運に思っています。訪問時には生け花、茶道など日本の行事や習慣にふれ、日本人の芸術性も感じました。私達夫婦は、毎年日本の方々を家族のように迎え、食事、旅行など一緒に過ごす中で自国の再発見もしました。

また、サーモンアームに建設された「友情の門」は、そこを訪ねる人々に何かを感じさせ、より良い世界にするための小さな一歩となることでしょ。

オカナガン大学留学記

太 田 陽 野 (西代)

Q オカナガン大学の校風・様子等良いところは？

A 緑に囲まれた穏やかな環境の中でゆったりとした気持ちで勉強することができました。

Q 選択した学習コースやシステムについて

A ESL (English as a Second Language) このコースは、英語を母国語としない人たちを対象とした英語のクラスです。授業は、読み・書き・話す・文法・発音・英語基礎の6つがあります。



▲ケローナのバブで

Q 今後留学する方々へのアドバイス

A 辛い事もあると思いますが、楽しい事の方が多く、人生の中で貴重な経験・体験ができると思います。また色々な国の人の考え方や文化を学ぶことで自分も大きく成長できると思います。

Q 留学経験全般の感想

A 語学の習得はもちろん、世界中に友達もでき、また色々な人種・文化・考え方と接することができ、自分の中でプラスになることを多く経験することができました。

Q ホストファミリーとの交流・生活の様子

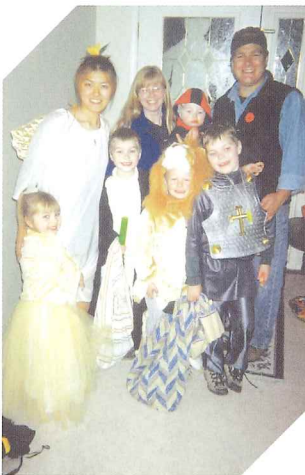
A ハロウィーンやクリスマスなどのイベントは盛大で日本では味わえない楽しい思い出ができました。またクリスマスには人の顔よりも大きな七面鳥を食べたりして大賑わいでした。



▲ホストファミリーと(私のBIRTHDAYを祝ってくれた日)

Q 言葉の問題はありましたか

A もちろんありました。しかし、行動しないとか何も通じないので辞書を片手に恥ずかしがらずにどんどん話しかけていきました。



▲ハロウィーンの日
ホストファミリーと一緒に



▲カーリングを体験

INFORMATION

○中学生、高校生、一般成人をカナダへ派遣

今年も8月中旬から姉妹都市サーモンアーム市へ青少年親善大使(中学生)・一般訪問団(成人)の派遣を予定しています。一週間のホームステイを通し異国の文化とカナダの大自然を体験してみませんか。東町として最後の派遣となります。詳しい募集案内は広報あづま5月号に掲載します。

○姉妹都市交流委員会にご協力を!(会員募集中)

委員会では、青少年親善大使派遣事業、ホームステイ受入事業、文化祭への参加など、幅広い交流の推進を展開しています。皆さんのサポートとともに、新規会員としてのご参加をお待ちしています。

○姉妹都市親善使節団来日

今年もカナダ・サーモンアーム市から親善使節団が来町し、3月28日から4月4日までの間、ホームステイにより滞在し交流を深める予定です。ご協力をお願いいたします。

○「友情の家」貸し出し

友情の家(バーベキュー等可)利用希望者は、生涯学習課(総合センター: 79-0053)へお申し込み下さい。

編集後記

昨年11月、県南・県西地域国際交流団体、市町村国際交流協会を対象にネットワーク会議が、つくば市において開催され、吉田、井上、新里の3広報委員が参加しました。

発足間もない古河市と15年のあゆみを持つ守谷市を中心とした分科会に分かれ情報交換が行われました。守谷市では、国際交流の資料及び情報の収集、企画運営、連絡調整等うまく連携し、各委員会毎の組織が充実しているのに驚きました。又、私たちが持参した機関紙も参考にして頂き各分科会は白熱の内に閉じました。

間もなく迎える町村合併。数多くの派遣団を送り訪問団を迎えてきた東町の15年のあゆみ。そして桜川村、新利根町等、近隣町村で行われてきた国際交流。共に併せ市民交流の一つとして活かされる事を望みつつ、皆さまの御意見を参考に、より充実した機関紙作りに励みたいと思います。

新 里